

## 令和4年度碧南市市民活動センター指定管理者審査委員会 会議録

日 時：令和4年6月9日（木）午前9時30分～午前10時51分

場 所：へきなん福祉センターあいくる 第2・3会議室

出席者：審査委員5名

【石川治、永坂幸子、鈴木まゆみ、角谷恵里子、杉浦英樹】

：事務局4名【山本政裕、鈴木勝哉、齋藤静絵、都築征希】

：説明者1名【市民活動センター長 大野裕史】

欠席者：審査委員1名

【金子潤】

傍聴者：なし

### 会議内容

#### 1 あいさつ

委員長あいさつ

#### 2 議題

##### (1) 令和4年度市民活動センター事業報告及び決算について

大野センター長より資料にもとづき説明

- ・令和2年度における相談件数の推移は時期によって件数の増減が激しかったが、令和3年度については、相談件数の推移については平均的になっている。しかし、コロナ禍以前に比べると相談件数は少ないものとなっている。
- ・オンラインへの需要が多く、機材やマニュアル等技術支援の整備・提供を行っている。
- ・独自業務のロジックモデルを更新した。
- ・つなが輪にトヨタ自動車(株)と碧南青年会議所が参加され、コロナ禍の中、市民活動を行う団体が抱えている課題を共有する機会を創出することができた。

- ・ おうちでサポプラまつりについては、令和2年度の事業ではあるが、令和3年度内において作成した動画を市民活動センター等で上映を行い、周知活動を行っている。
- ・ 災害への備えを学ぶ会を継続して支援を行っている。昨年度は新川中学校版ファーストミッションボックス（FMB）を作成し、3/27に実際に訓練を実施した。
- ・ へきなん自転車散歩実行委員会を継続して支援を行っている。  
 〈令和3年度実績〉参加者 120 名、運営・ボランティア 148 名  
 協賛企業、団体 65 社
- ・ 地域の商店街と実行委員会を組織する → コロナ禍のため中止とした

<質疑・応答等>

審査委員：市民活動センターが目標としている『結びあいのまちづくり』に向けて、現状として各施設の連携ができているのか。

説明者：長期的な目標であるが、できつつある状態である。しかし、現状では地区に限られており、自治会・町内会とのつながりも限定的なため、今後拡大していきたい。企業とのつながりについては『つながり輪』を通じて連携ができるようになってきた。

審査委員：碧南市内に子ども食堂の活動が多くなってきたが、子ども食堂からの相談はあるのか。

説明者：相談自体は受けている。例えば、令和3年度において、子ども食堂から地震の話をしてほしいとの依頼があって、講座を行った。

審査委員：碧南青年会議所と連携できたのはよかったのではないかと。

説明者：今後多くの企業と連携ができるようにしていきたい。

審査委員：（市民活動センターの）認知度がまだ低いと感じる。PRをもっとしてほしい。

説明者：令和3年度において、公民館まつり等でPRする予定ではあったが、コロナ禍でそのPRができなかった。今後よりPRできるように活動していく。

審査委員：まちづくりのイメージがつかめていない。

説明者：自分たちが楽しく住みよい街になるといいなと思える、これこそがまちづくり（みんなが自分事として行動できる状態）

審査委員：（意見として）碧南市には公民館や区民館、まちかどサロン等の施設が多くあると思う。今後、その施設と連携して行ってほしい。

(2) 令和4年度市民活動センター事業計画及び予算について

大野センター長より資料にもとづき説明。

- ・トヨタ自動車(株)と碧南青年会議所、市民活動センターで各市民団体の課題を掘り起こし、解決するために経験やノウハウを持つプロボノ的な役割をもった緩やかなチーム『つなが輪へきなん』を組織した。

<意見・質疑・応答等>

審査委員：（意見として）進捗具合を「見える化」するために、ある程度の目標的な数値を示して、実際に何が達成できたのか次の課題とするのかわかりやすくしてほしい。また、これまでコロナ禍のために、行うはずの事業がやりたくてもできなかったこともあるので、コロナが収まったときにはこれまで碧南で使えなかった予算の分、碧南市へ還元してもらえるような活動を期待している。

審査委員：昨年度も施設がある新川地区が主となっているという話があり、それ以外の地域での活動・支援をしてほしい。

説明者：今年度、公民館まつりの実施に伴い、PRする場を増やしていく。すぐに全てとはいかないが、1つ～2つくらいから進めていく。また、車座講座について、今年度は館内だけではなく、7月に碧南市海浜水族館にてSDGs関連の講座を行う。

審査委員：ファーストミッションボックスの今後の展開について教えてほしい。

説明者：新川中学校の場合は、災害が起きた場合にどの教室・部屋をどのように使うか等を学校の先生と入念に打ち合わせを行い、マニュアルを作

成した。その工程を他の地域においても行っていかないといけない。  
ちょうど一週間前に今後、災害ボランティアの方々と月一回打ち合わせを行っていきながら、次にどの地域の支援を行っていくかを検討していくと方針を決定し、進めていく。

審査委員：各地域にも自主防災会といった組織があつて、そこと連携しないと  
いけないのでは。

説明者：もちろん連携しないと進んでいかないのでその通りだと思う。また、  
若い方々を巻き込んでいく必要もあると考えており、今回、碧南工科  
高校の高校生に周知をすることができたので、高校生のアイデアを  
取り入れたり、今後、さらに広めていこうと思う。

### 3 その他

<特になし>